

平成 23 年 8 月 31 日

義援金・見舞金をお寄せいただきました全国の
酪農生産者、関係役職員、一般の方々へ

関東生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長 奥 澤 捷 貴



謹啓

東日本大震災に係る酪農家支援のため、全国の酪農生産者を始め、関係役職員、一般の方々より関東地域の酪農家にお寄せいただきました義援金・見舞金を、この度（社）中央酪農会議を通じて贈呈いただきました。ご報告申しあげますとともに、厚く御礼を申しあげます。

去る 3 月 11 日の東日本大震災の発生により、生産者並びに取引乳業者において大きな影響を受け、かつて経験ない混乱状況に陥りました。

震災後、管内各地で停電となり搾乳ができない状況となりましたが、茨城県及び千葉県の一部地域を除き、ほぼ翌 12 日には通電し、搾乳作業が可能となりました。通電が遅れていた茨城県央 CS（クーラーステーション）についても、14 日夕刻に電気が復元し、生乳の出荷体制並びに CS の受け入れ態勢がほぼ整いました。

しかしながら、工場被災・資材不足等により管内取引乳業者の生乳処理量が激減し、管内乳製品工場の受け入れも不可能となり、域外転送を試みるも燃料不足によりそれもできず、この状況が 20 日まで継続することとなりました。

これにより、7,084t の生乳を廃棄、加えて東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故による出荷制限により、8,779t の廃棄を余儀なくされました。

現在は、生乳の放射性物質検査に基づき、安全が確認されたことから出荷制限は解除されておりますが、稲わら・堆肥汚染等、未だ原発事故の収束が見えないこともあり、消費者の不安の払拭に苦慮している状況にございます。

そのため現在も、関東全都県において、定期的な生乳の放射性物質検査を実施し、生乳の安全性を確認した上で出荷しておりますので、今後とも関東産生乳のご愛顧を賜りますようお願い申しあげます。

今回、皆様からお寄せいただきました温かいご支援は、関東地域の原発事故による影響分を除いた廃棄生乳の乳代金の一部として補てんをさせて頂きました。深く感謝を申し上げます。

関東地域の生産者を代表いたしまして、取り急ぎ、書面をもって御礼申し上げます。

謹白